

平成28年度 学校経営方針

平成28年4月1日(金)
校長 木津正博

はじめに

「学校は、子供のためにある。」 ⇒すべての判断基準は「子ども」にある。

I 経営の基底—信頼と責任

信頼は、教育活動すべての前提である。教師と子ども、子ども同士、教師相互、教師と保護者の信頼関係を基盤にして、「家庭・地域から信頼される学校」をめざす。

そのために、教師は良識ある社会人として、また教育の専門家としての責任を果たすとともに、学校・家庭・地域が子どものよりよい育ちのためにそれぞれの責任を共有しながら、日々の教育活動を推進していく。



II 経営の方針

1 めざす学校像(開校40年目)

校歌の一節「みんなひたいを日にむけて 空に希望の虹えがこう」に謳われた学校の実現をめざす。

一人一人の子どもが、自分に自信をもち、夢や志を実現していこうとする意欲を抱く学校。そこで、子どもと教師が学ぶことの楽しさや喜びを分かち合い、切磋琢磨しながら自己実現を図っていく。

創立40周年を祝う取組を通して、高館小学校に学ぶ誇りと自信をもたせ、将来、高館のよりよいまちづくりに貢献できる人材を育む。

2 めざす子ども像

「夢や志の実現に向かって学び続ける人間性豊かな子ども」の育成

- 確かな学力を身につけた子ども
- 基本的な生活習慣、学習習慣を身につけた子ども
- 命を大切にすること
- 読書に親しむ子ども
- ふるさとを愛する子ども

3 教育目標(長期目標)

『たくましく生きる子』

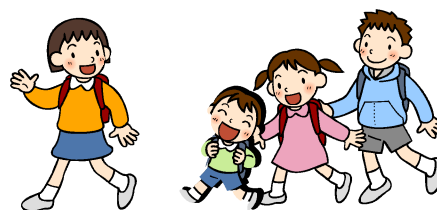
4 努力目標(中期目標)

- 「よく聴きはっきり話す」
- 「なかよく助け合う」
- 「力いっぱい運動する」

5 学校目標(短期目標)

自分の考えや思いをはっきり話す力を伸ばす。

(→わかりやすく)
(→ていねいな言葉づかいで)



【重点施策】

①授業の充実

- 学び合い活動の充実→校内研の日常実践
- ねらいを明確にした授業の継続

②学習習慣(読書習慣、家庭学習習慣)の確立

- 読書指導の充実
- 家庭との協力(学習・読書)

③互いに認め合う人間関係づくり

- ていねいな言葉づかい(「高館っ子なかよし宣言」の推進)
- Q-Uをもとにした教育相談

<学校目標の具現化のために>

- すべての学級でなされること
- 子どもたちの変容として表れること
- 教職員の手応えとして残ること

<同僚性の構築>

- 同僚(先輩)にまねて学ぶー謙虚さー
- 仕事は厳しく自分の持ち場で力を発揮するー責任とフォローアップー
- 子どもとともに育つー子どもが自分を育ててくれているー

<ルールとリレーションの確立>

- 集団にはルールが必要ールールが無い集団は目標を達成できないー
- 集団には温かい人間関係が必要ーよさ(有能感・有用感)に目を向け引き出すー
- ルールとリレーションのどちらもバランスよく集団に定着させる

6 めざす教師像

(1)子どもに信頼される教師

- ①子どもと一緒に活動し、ともに汗する教師
- ②一人一人のよさを見つけ、そのよさを伸ばす教師

(2)保護者・地域に信頼される教師

- ①人間味あふれる温かみのある教師
- ②保護者や地域住民に誠実に対応する教師→「来校者への明るい挨拶から」

(3)専門家としての力量のある教師

- ①毎日の授業を大切にする教師
- ②使命感を持ち、研修に励む教師
- ③熱意とともに、謙虚さをあわせもつ教師



Ⅲ 学校運営に際して

1 保護者との信頼関係を構築するー誠意ある対応とスピードある対応ー

ーサービス規律の厳守ー

2 地域密着型教育を生かすー高館小の歴史と伝統を学ぶー

3 特別支援教育の視点を大切にするー通常の学級での特別支援教育ー

4 1時間1時間の授業を大切にするー週案簿の充実(月曜日の朝、提出)ー

5 職員朝会・職員会議の効率的な運営ー報告・連絡・相談と共通理解ー

6 場を清め、時を守るー清潔な学校・教室の中で、時間を守ってー